

桶川市歴史民俗資料館 資料解説講座

# 『夏の民俗』

平成 27 年 7 月 26 日 午後 2 時開講

会場：川田谷生涯学習センター

講師 桶川市歴史民俗資料館 橋本富夫

(日本民俗学会会員)



川田谷狐塚地区 砂ヶ谷戸観音堂の花祭り 平成 27 年 5 月 8 日

夏。この季節は、人にとって厳しい季節となります。  
この季節を乗り越えるために、さまざまな「まつり」を行ってきました。  
本日の講座では、かつて歴史民俗資料館が制作した記録映像をもとに、桶川の人々が祖先から受け継いできた行事を紹介します。

## 1. 二つの時間と年中行事

私たちは、二つの時間を生きています。

歴史と人生：過去、現在、未来とまっすぐに移り変わる時間

自然と暮らし：暮らしを司る循環する時間 四季 年中行事 世代

とくに、後者の時間の中での営みの中で、私たちは生活文化を成熟させてきました。

民俗学は、近代社会の中で生きる私たちが、祖先から伝えられた生活文化に向き合う学です。民俗学では、後者の循環する時間の中で生活文化が形作られてきたとし、年中行事を研究の対象として重視します。

## 2. 夏とは

旧暦 月区切り：4月〔卯月〕 5月〔皐月〕 6月〔水無月〕

節区切り：立夏から夏至を経て大暑まで

※土用とは立秋前の18日間。すなわち土用が開けると秋になるということ。

農事歴と雑節

夏も近づく八十八夜

芒種

半夏水

土用干し

## 3. 夏の民俗行事

(1) 映像作品「夏の民俗」に収録されている年中行事

○初山

加納の浅間社と富士塚は、桶川宿の富士講の伝統を引き継ぐ岩崎家によって、守られている。7月1日は、富士山の山開きにあたり、この日を初山という。

この日までの一年間に生まれた子供がお参りし、岩崎先達から額に朱印を押してもらい、無病息災を祈って富士塚に登山することが行われている。

○前領家のささら獅子舞 村廻り

○夏祈祷 一岡村の村廻り

梅雨が明け、麦の収穫を終えるころ。桶川地方の村々では、夏の悪疫を退散させるために、村廻り行事が行われる。

村廻り行事は、夏祈祷とも呼ばれ、獅子頭をもつ



て村内の家々を祓って回る。

川田谷の岡村地区では、氷川神社を出発した村廻りの一行は、約 200 戸を回る。この日、村廻りでは、畑を突っ切っても良いとされ、囃子連とともに、駆けるように村内を巡る。

今では、土足で家にあがることはされなくなったが、撮影当時は何軒かの家で古いしきたりどおり、縁側から家に上がり、室内を祓うことが行われていた。

途中、休憩所となる区長など役員の家では、村廻りの一行を接待する。

この時の行事食として、小麦饅頭は欠かせない。この時季が麦の収穫を祝う意味にあり、かつては、新しい小麦で饅頭を作ったという。

#### ○桶川祇園祭り

江戸時代に、祇園牛頭天王をまつる市神社の祭礼は、この伝統は、八雲神社の祭礼として本街保存会、栄会、八雲会によって現在も伝えられている。

街の祭りは、たくさんの人々を集め、沿道には露店が並ぶ。その中を囃子の人々を乗せた屋台が引き回されて行く。3 台の屋台は駅通りと中山道の交差点に集まり、囃子の「ひっかせ」が始まる。



一方、村の若者たちの囃子連を街に招く伝統も今でも引き継がれ、各町内の沿道には「囃子棚」が設えられ、市内の下日出谷、倉田の囃子、そして北本市内の囃子連が参加している。

#### ○川田谷の盆行事（小澤家）

桶川の盆行事は、月遅れの盆として 8 月に行われている。

川田谷の南部にあたる薬師堂地区の小澤家は、家の行事をしっかりと伝承している家である。

8 月 13 日の迎え盆の日、盆棚の設え、迎え盆を行う。新御堂墓地から迎えた先祖の霊を家に迎える時には、縁側から入ることは古い習慣である。また、先祖に供える食事も見逃せない。8 月 15 日の送り盆も縁側から見送る。

#### ○専福寺の施餓鬼法要と松原の真言

#### ○どやま灯籠

桶川市の東端に位置する篠津地区に伝わる行事。8 月 23 日に地区内の墓所にある地藏堂で行われる。墓所は灯籠が飾られ、夕方から子供連れで地区内の人々が集まり、墓に燈明をあげ、堂内で飲食を楽しむ。

かつては、米粉で作った大きな団子をつくり、これを地藏菩薩に供えたという。

埼玉県の東部、利根川の流域では地藏盆行事が広く行われており、篠津のどやま灯籠も

これにあたる。

## (2) その他の民俗行事

### 民俗文化財の記録保存

本日、紹介する記録保存映像作品「桶川の民俗3 夏の民俗」は、桶川市歴史民俗資料館が、平成9年から平成11年にかけて制作した民俗文化財の記録保存映像の一つです。

当時の桶川市は、上尾道路、圏央自動車道などの大規模開発が具体的になり、地域の景観や暮らしのあり方が大きく変化することが予想された。そのため、桶川市の景観とともに民俗行事の記録を作成するために、放送規格（ベータカム）にて映像の制作を委託し、併せて歴史民俗資料館にて業務用 VTR（Hi8）にて撮影した映像をもとに映像作品を制作したものである。

制作以来、10年余りが経過し、この作品を見直すことは、行事の記録ばかりではなく、桶川の人々の暮らしの移り変わりを見直す機会となる。本日、紹介した行事は、現在もすべて継承されている。